

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク期間に中心市街地を訪れる来街者は前年と同様に多くなかったが、ゴールデンウィーク以降は花の市等のイベントもあり、地元客の増加に加えて、土産物の買物袋を携行する観光客が日本人を中心に増加しており、業種により異なるが、前年と比較して全体的に景気が緩やかに上昇している。
		コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・当地の主要産業である漁業の状況が良いことから、やや良くなっている。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・前年比での上乗せが継続している。伸び率も増加傾向にある。
		衣料品専門店（店長）	単価の動き	・3か月前及び前年と比べると、客1人当たりの客単価が高くなっている。
		高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・春めいてきて、ようやく人が外出する時期となり、緩やかではあるが来客数が増え続けている。
		観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・東日本大震災の影響で中止していた大会、イベントが今年は開催されたことから、近隣アジアからの観光客は前年比65%増の回復となった。国内旅行商品の利用客も好調である。
		観光名所（従業員）	来客数の動き	・利用客数をみると、3か月前は前年比71.2%であったものが、今月は25日時点において、前年比131.2%と増加している。ちなみに、前年比の推移では、3月は前年比190.2%、4月は前年比261%と増加傾向が継続している。
		観光名所（職員）	来客数の動き	・3か月前に比べ来場者は減少しているものの、前年比で169%と増加した。また、東南アジアからの来場者も前々年並みに回復しつつある。
		美容室（経営者）	お客様の様子	・美容関連商品に対して、以前よりも興味を持って話を聞いてくれる客が多くなり、雰囲気も良くなってきた。そのため、販売量も増加傾向にある。
	その他サービスの動向を把握できる者【フェリー】（従業員）	来客数の動き	・肌寒い日もあるが、ようやく個人客を含めた観光客が増加してきた。しかしながら、前々年の利用客数には及ばない。	
	設計事務所（所長）	お客様の様子	・リフォームなどの動きが少し出てきた。	
変わらない		商店街（代表者）	お客様の様子	・少しずつ天気が良くなり、暖かくなるにつれて、景気の方も若干上向きになってきている。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・客の様子をみると、前年や前月と変わりがなく、平々と日々を過ごしている状況である。
		一般小売店【酒】（経営者）	販売量の動き	・今月はゴールデンウィークの売上が堅調で良かったことが、月全体の売上の増加にもつながっている。ただ、前年と比べて営業日数が2日ほど多いことを考えると、実態はそれほど好転していない。
		百貨店（売場主任）	単価の動き	・1月以降、買上客数の前年割れが続いている。客単価は前年比99～103%で推移してきたが、5月は客単価が前年比97%と前年を下回っている。
		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・来客数は伸びているものの、買上客数が減少傾向にあり、購買に対する客の意欲がまだまだ高まっていない。
		百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・前年との状況を比較すると、東日本大震災直前の2月も震災直後の5月も来客数の増加がみられず、顧客離れが継続している。
		百貨店（役員）	販売量の動き	・5月初旬は暖かかったものの、中旬以降は3月並みの気温にしかならなかったことから、衣料品の春物セールと初夏物の定価品販売が落ち込んだ。
		スーパー（役員）	来客数の動き	・来客数が前年比で2.5%低下しているものの、客単価が前年比で2.5%上昇しており、あわせて前年の売上を維持している状況が数か月続いている。ディスカウントストアの出店や消費者の買い控え等が要因として考えられるが、競合店も同様に消費が低調である。
		スーパー（役員）	販売量の動き	・前年は東日本大震災の影響が残り、生活必需品の需要が高かったが、消費が通常の状態に戻っており、客の買物動向も前々年並みになっている。

コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・前年のたばこ納品回復の反動減が始まり、売上の的には厳しい流れである。イベント需要や週末需要も動きは鈍い。しかし、天候要因のずれ込みで農業者などによる需要がプラス要因となっている。
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数は既存店ベースで前年を上回っているが、たばこやアルコールの売上が依然として減少しており、嗜好品など、ぜいたく品の売上減少が続いている。
衣料品専門店（店長）	単価の動き	・別に大きな問題はないが、悪い状態が続いている。
衣料品専門店（店員）	お客様の様子	・客の消費行動をみると、必要な物以外購入しない。納税の多い月のせいなのか、今一つ街のなかに活気がない。
家電量販店（店員）	販売量の動き	・5月前半はまずまず良かったが、後半になり来客数が減った。晴天が続かなかったため、エアコンの売上も伸びなかった。
家電量販店（地区統括部長）	販売量の動き	・前年に終了した家電エコポイント制度と地上デジタル放送への完全移行の反動の影響が依然として続いており、テレビや冷蔵庫、洗濯機といった大物商品の需要が落ち込み続けている。
その他専門店 〔ガソリンスタンド〕（経営者）	販売量の動き	・引き続き自動車燃料の販売量が減少傾向にある。
高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・景気は上向きになっていると言われてはいるが、自店の売上は伸びておらず、実感がない。
高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・週末は観光客でほぼ満席となったが、平日は地元客のファミリーが目立つものの、週末の半分の売上であった。ただし、全体の売上は前年比103%であった。
高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・低価格帯のメニューが好評で前年を超える売上となった。夕食も格安メニューを告知したところ、少し良くなった。先月に続き、北海道版グルメガイドの掲載店は好評のようである。しかし、星の付かなかったホテル、レストランなどの夜間営業は思ったほど客足が伸びていないようだ。
一般レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・ランチタイムの来客数は堅調だが、ディナーの来客数が東日本大震災前の前々年と比べて半減したままである。
スナック（経営者）	来客数の動き	・人出がなく、悪い状態が続いている。
観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・3か月前と比較して、ほぼ同様に悪い状況が続いている。本州方面からのエージェント団体客の激減に加えて、前年同時期にみられた底堅い道内客の動きが止まっているため、来客数は回復していない。
タクシー運転手	来客数の動き	・前年は、3月の東日本大震災以来、北海道に来る観光客が激減し、地元も自粛ムードにあったことから、タクシーの利用及び売上が大きなマイナスであった。今年は、観光客も戻ってきていることから、売上の大幅な増加を期待したが、前々年と比べるとマイナスであり、前年より少し増収になった程度である。
タクシー運転手	販売量の動き	・販売量の動きに顕著な傾向がみられない状況であり、先行きの不透明な状態が続いている。
タクシー運転手	来客数の動き	・注文数が前年並みであった。海外観光客による利用がやや減少した分、国内観光客による利用が少し増えた。
通信会社（社員）	お客様の様子	・特段、客の反応が良くなったこともないうえ、そのような話も聞かない。観光ビジネスに携わる方の話では、まだ観光客は戻ってきておらず、前年と比較して状況は変わっていないようである。季節の変わり目で消費財を扱う業界は活発に動き出しているだろうが、それも例年どおりのペースとみられ、今年は良いという手ごたえを持っている業界はないとみられる。好調なのはエコビジネスぐらいである。
美容室（経営者）	来客数の動き	・ここ3か月、来客数の前年比がマイナス3～5%の水準が続いている。
住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・客のマンション購入に関する意思決定は、少し前と比べて、時間がかかるようになってきている。また、購入するか、借りるか、リフォームするかについて、方向性が明確でない客が増えてきている。

やや悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・急に暖かくなったり急に寒くなったりと、例年のない気候の変化がみられることから、外出を控えるなど、客の動きが鈍くなっている。	
	商店街（代表者）	お客様の様子	・気温が安定しないのも原因の1つとみられるが、ゴールデンウィーク以降も客の夏物商材への購買意欲が高まっていない。客はまだ夏物商材を買う気がなく、袖物など、単価の低い羽織物を中心に買物をしているため、客単価の低い傾向が続いている。	
	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・5月はゴールデンウィーク期間中の大雨のために、客の来店が少なかった。中盤から下旬にかけても雨の影響があり、来客数が減少した。ジャケット及びコートが前年比95%、スーツが前年比80%となっており、紳士服、婦人服とも厳しい状況である。	
	スーパー（店長）	販売量の動き	・5月の誕生祭売出しの不振により、販売量も前年の94%と大きく減少した。原因としては、普段から、競合店対策として超目玉戦略を取っているため、価格にインパクトがなかったためである。	
	スーパー（企画担当）	販売量の動き	・前年の自粛の反動予想から今年のゴールデンウィーク商戦は大きな期待を持って臨んだが、ゴールデンウィーク前の高温と比べて、ゴールデンウィーク期間中は極端な低温となり、焼肉などの行楽関連商品の動きが予想を大きく下回った。その後も、道東地方で積雪があったことなどの影響で春物商材の動きが悪かった。	
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・政府の自動車への補助金政策の効果で、これまではある程度の好調さを維持してきたが、今月に入り、補助金枠の底が見えるようになってきたことから、一時の勢いがなくなった。	
	乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・新型車の効果も一段落している。エコカー減税やエコカー補助金も、期待したほど受注の増加に結び付いていない。	
	その他専門店〔医薬品〕（経営者）	来客数の動き	・客の病院志向が進んだためか、ささいな風邪やアレルギー性鼻炎程度であっても一般薬局の領域から外れつつある。	
	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・前年の東日本大震災の影響から今年は大きく回復すると予測していたが、思ったほどの回復がみられない。特に観光需要が今一つ伸びない。	
	タクシー運転手	販売量の動き	・今月はゴールデンウィークがあつて期待をしていたが、天候が悪く思うような売上とはならなかった。3か月前と比較しても、約8.5%の売上減であることからやや悪くなっている。	
	通信会社（企画担当）	単価の動き	・通信端末の値引きを行っているが、期待したほどの販売量を得られていない。また、値引きに対する客の反応も一部ではみられない。	
	美容室（経営者）	来客数の動き	・この不景気が続く限り、回答が非常に難しい。とにかく景気が悪く、不景気だということ以外に話すことはない。	
住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・この冬の雪の多さと厳しい寒さの影響で春物の売上がずれ込んでいる。		
悪くなっている	家電量販店（店長）	お客様の様子	・来客数が減少しており、客の購入意欲が低下している。	
企業動向関連	良くなっている	-	-	
	やや良くなっている	食料品製造業（団体役員）	受注量や販売量の動き	・航空便の機材の大型化や各種大会の開催等が続き、来訪者が増加していることから、宿泊及び土産品や飲食での消費効果がみられる。
		コピーサービス業（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・客単価が少しずつではあるが向上している。
	変わらない	食料品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・売上が3か月前と変わらず、横ばいで推移している。
		金属製品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	北海道においては、住宅の建築確認申請件数及び住宅着工件数が前年よりも増えていない。また、受注量も前年同様に推移しており、今のところ景気の現状は変わらない。
		建設業（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・大型医療施設の工事発注が相次いでいるが、一般紙にも報道されているように、予定価格又は落札価格が採算限界点を下回っており、東北の復興景気と関係なく、道内の建築工事単価は低調のままとなっている。
		輸送業（営業担当）	取引先の様子	・本州各地の気温が高くなってきたが、飲料品の出荷が今一つである。

	輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・ゴールデンウィークの関係で営業日が少なかったが、前年と比べて取扱量が減少している傾向に大きな違いはみられなかった。輸出入コンテナの取扱本数、鋼材の量も前月と比べて大きな変化はみられなかった。
	金融業（企画担当）	それ以外	・観光関連では、外国人観光客がほぼ東日本大震災前の水準に戻ったが、ゴールデンウィーク期間中は悪天候により、屋外レジャーの人出は少なかった。設備投資は医療福祉関連の増設により底堅い。雇用は建設関連で技能工が不足気味である。
	司法書士	取引先の様子	・建築業及び不動産仲介業ともに若干の上向き傾向にあるが、明確に言えるような上昇ではない。
	司法書士	取引先の様子	・雪も解け、不動産の形状を確認することができる季節となり、不動産取引が動き出す気配は感じられるが、長引く景気の低迷から、住宅の新築着工が伸びてこない。マンション建設も活発ではなく、中古物件がやや動き出している程度である。復興事業の特需も景気回復の起爆剤にはなっていない。
	その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	取引先の様子	・春先の天候不良で、基幹産業の農業が出遅れている。
やや悪くなっている	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・住宅関連の家具需要が伸び悩んでいる。特に首都圏と近畿圏で低迷している。
	司法書士	取引先の様子	・例年であれば建物の新築工事とそれにとまなう土地売買が増加する時期であるが、いずれとも減少している。
	その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	受注量や販売量の動き	・ゴールデンウィークの影響のせいか、販売量、販売額ともに減少した。大型鉄骨案件も出てきてはいるが、今月の仕事量は少ない。
悪くなっている	-	-	-
雇用関連	良くなっている	-	-
やや良くなっている	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・求人広告の受理件数が、派遣関係を含めて2割程度増加している。
	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・4月と同様に前年の東日本大震災直後の求人控えがあったため、5月の求人数は前年比で約130%と大きく伸ばした。飲食業では空いていたテナントに新規オープンする店が増えてきているなど、状況は少しずつ良くなってきている。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・5月の募集広告売上は前年比134%と大きく伸長した。特に、小売、流通、派遣、運輸運送が大幅な上積みとなった。環境衛生、土建不動産が若干マイナスだった以外は、医療、自動車、飲食もプラスで全体的には前年を大きく上回った。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は11.2%増加し、27か月連続で前年を上回った。また、月間有効求人数も15.2%増加し、27か月連続で前年を上回った。
変わらない	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・当社における登録者数は3か月前に比べて減少している。これだけを見ると、失職者が減っているように見えるが、実際には若年者などが就職セミナーに多数参加しており、就職率が上がっているようには見えない。当社の関連会社が行う職業訓練の募集には定員の6倍の失職者が応募に殺到するなど、労働市場が回復に向かっているとは思えない。
	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人数は相変わらず多く、求職者数の動きに変化を感じられない。
	求人情報誌製作会社（編集者）	周辺企業の様子	・求人数が微増傾向のため、景気は回復基調にあるとみられるが、景気が好転するような明るい材料は聞かえてこない。
	職業安定所（職員）	それ以外	・管内の求人倍率は0.48倍と前年を0.06ポイント上回ったが、全国平均より0.18ポイント低く、依然高い水準とはいえない。

	職業安定所（職員）	雇用形態の様子	・管内の4月の有効求人倍率は28か月連続で前年を上回っているところではあるが、依然として、医療、介護分野の更新求人が多い。新規求人も増えてはいるものの、正社員求人以外のパート契約社員の割合が高いことから、数字上では持ち直しの動きが示されているが、雇用形態の不安感から良くなっている実感はない。
	職業安定所（職員）	雇用形態の様子	・4月の新規求人数は前年比24.8%の増加となった。新規求職者数は前年比6.2%の減少となった。月間有効求人倍率は0.64倍となり、前年の0.47倍を0.17ポイント上回った。新規求人数のうち、正社員求人の占める割合は43.5%と依然として低く、求人者と求職者との間における職種や労働条件のミスマッチも少なくないことから、依然として厳しい状況にある。
やや悪くなっている			
悪くなっている	-	-	-